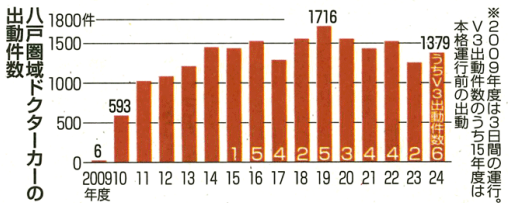




八戸市立市民病院に常駐するドクターカーV3（手前）。救命救急センター（右奥）の前にはSUVのドクターカー1台が待機し、すぐに出勤できる態勢を整えている



八戸市立市民病院を拠点に運行している移動型緊急手術室の機能を搭載した「ドクターカーV3」について、八戸工業大学が同病院などと共同で、本年度中の着手を目標に、後継となる新型車両の開発準備を進めている。従来型はV3から車外に張り出したテントの中で手術を行っていたが、新型ではテントを張らずに車内で手術をするスペースの確保が可能かどうかを検討する方針。

患者を乗せた救急車と合流。手術の際は車の屋根に搭載した箱からテントを張り出してスペースを確保し、心肺停止状態の患者を蘇生させるための人工心肺装置ECMO（エクモ）の装着手術などを行う。同病院によると、運行開始から今年5月末時点での出動件数は37件。うち14件で手術を実施し、社会復帰を果たした患者もいる。一方で運行開始から間もなく

9年が経過し、近年はバッテリーが上がるといった不具合が見られるなど車両の老朽化が進んでいることから、V3の更新が課題となっていた。浅川教授は、V3の運転などに携わる同病院の救急救命士から「テントの引き出し作業が煩雑」との声を聞き、新型車両で改良を試みるという。「広い手術スペースが必要な時は従来通りテントを利用するが、テントを使わずバックドアを開けた車内で手術を行うにはどれくらいのスペースが必要かなど、研究を進めた」と話している。

現在、同センターの救急救命士は、今明秀病院事業管理者を含め過去最多の24人。救急救命士は14人で、ドクターカーの運転や診療補助などに当たっている。吉村所長は「原動力となっているのは、全国からドクターカーやヘリについて学びたいと集まってくる若手医師や救急救命士たち。活気のあるセンターになった」と15年の成果を語る。八戸で経験を積み、県外でドクターカーの運行に携わる医師もいるという。吉村所長は「今後も地域の皆さんにドクターカーの安全運行にご理解をいただきながら、全国の模範になるような安全運行と救命率向上に取り組みたい」と述べた。

（千葉真由美）

開発には県内外の複数の企業が協力の意向を示しており、工業大学と医療機関、地元企業との「八戸版医工連携」の新たな取り組みとして注目される。V3は同病院から離れたへき地での救命率と社会復帰率の向上を目指し、2012年度から同大工学部の浅川拓克教授と同病院の今明秀事業管理者を中心に開発。16年7月、同病院3台目のドクターカーとして運行を開始した。消防からの出動要請を受け、医師と臨床工学技士らに乗せて同病院を出発し、

八戸圏域 出動2万件超
ドクターカー15年 劇的救命250件

八戸市立市民病院を拠点に運行している八戸圏域のドクターカーが、2010年3月末の運行開始から15年が過ぎた。24年度までの出動件数は2万件を超え、このうち救急車だけでは救命が困難で、ドクターカーの出動による緊急処置で一命を取り留めた「劇的救命」は250件に達した。

同病院に常駐するドクターカーは、スポーツタイプ多目的車（SUV）2台、出勤先で手術が可能な「V3」の計3台。消防の出動

う。09〜24年度の累計は2万62件となった。24年度に出動要請があった市町村は八戸市が最多で、おいらせ町や階上町、南部町といった八戸圏域が多かった。三沢市や六ヶ所村などの近隣市町村、岩手県、秋田県からの要請もあった。「V3」の出動件数は6件で、うち3件で人工心肺装置ECMO（エクモ）の装着手術を実施。三戸郡と十三地区で、それぞれ心肺停止状態の患者に手術を行い、その後2人も社会復帰を果たした。

現在、同センターの救急救命士は、今明秀病院事業管理者を含め過去最多の24人。救急救命士は14人で、ドクターカーの運転や診療補助などに当たっている。吉村所長は「原動力となっているのは、全国からドクターカーやヘリについて学びたいと集まってくる若手医師や救急救命士たち。活気のあるセンターになった」と15年の成果を語る。八戸で経験を積み、県外でドクターカーの運行に携わる医師もいるという。吉村所長は「今後も地域の皆さんにドクターカーの安全運行にご理解をいただきながら、全国の模範になるような安全運行と救命率向上に取り組みたい」と述べた。

（千葉真由美）

八工大・市民病院など

移動手術車 後継開発へ

八戸市立市民病院を拠点に運行している移動型緊急手術室の機能を搭載した「ドクターカーV3」について、八戸工業大学が同病院などと共同で、本年度中の着手を目標に、後継となる新型車両の開発準備を進めている。従来型はV3から車外に張り出したテントの中で手術を行っていたが、新型ではテントを張らずに車内で手術をするスペースの確保が可能かどうかを検討する方針。

現在、同センターの救急救命士は、今明秀病院事業管理者を含め過去最多の24人。救急救命士は14人で、ドクターカーの運転や診療補助などに当たっている。吉村所長は「原動力となっているのは、全国からドクターカーやヘリについて学びたいと集まってくる若手医師や救急救命士たち。活気のあるセンターになった」と15年の成果を語る。八戸で経験を積み、県外でドクターカーの運行に携わる医師もいるという。吉村所長は「今後も地域の皆さんにドクターカーの安全運行にご理解をいただきながら、全国の模範になるような安全運行と救命率向上に取り組みたい」と述べた。

（千葉真由美）

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」